HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	國民社會の観点よりみた都市機能　第一巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1963-07-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77524
Type	manuscript
File Information	I030_0122S36.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

22

NOTE BOOK

國民社會の觀点よりみた

都市機能

一 都市農村の機能論

研究

(第二卷)

200字 46枚

昭和二十六年二月

十六日

政治的結社の機能は同時に支配の機能をもち、経済的結社の機能は同時に搾取の機能をもっているのは人間社会のさいしょからのよくない癖だと考えられる。

最初の一国の支配の機関が搾取の機関が集合して貴族的結社を形成しまた搾取の中心的機関の中心的機関の中心的機関をも兼ねて貴族すなわち貴族であるが、今では多くの人がそれ

を強いられたが、比較的その生
活費は決の移住者へ
の補償費と
合
口長の口長のための口長の政治を
政策とする民主的政策からみて
は政治の中心は口長にまかせる
べき
数さ[illegible]
[illegible]
と高橋に支部の仕事を要求意
しかしこの
首府は口長と共に金
口にあまねく分散させようとする
今都の才能にはもちろんあるが
原政の力能もかなりの
所在地に年に書類その一つ

全国の中心的機関が東京に集まるように東京の過大なる国土あるが、東京の中心都市が中心なる中心的結節的機関が皆東京の都心に集まっているように東京の混乱の原因である。中心的結節的機関は東京都市内の中心部より分散して市内の各地域に分散する。これによって東京をはその等用の混乱より救はれるであろう。

（結論）

（結論に続く）

（結論に続く）

であるこの事物をはじめ的結合おいて空間的分散されている一大の集中した民主的産業用に対する動員で比較的動員は動員以外の日本人の社会に生活へ向って来たのである。これは日民社会に対する省庁の中心的機関が分散されるようになった。省庁の中心的一部の中心地域は中心地域の各地区に分散されている。

東京都内の各地区に分散されている。

⑥ 結論

以外敬遠されつゝあり、中央集権的な
政策の外、隆者は日星に中枢者は
移動しとゝ移動しつゝあり。
中日の都市は職場と極度に
住宅が四囲に作られ
とゝ移動の移動つゝ此方式は意義
小職味さつゝあり。機関とその
経営が同市に設置されることを
制を徹底事は
都市が拡大して限れまなく
巨大都市は最早の都市計画に
あらず。力みかえった都市の中への虚

※住宅と職場が分離したのは近代の出来事。
住宅と中心街や城周辺が市松模様をなして金平を霧島い、どこにも都市がなく、どこにも都市がある時代を作りそこを我が時代の民衆の都市にふさわしい。
（それが都市となった都市は周辺の本来の職場と職住を要求する。）
△主城でなくて市庁が停車場を中心におくると民主化の時代に入ったのかどうかなんなかなれば
はじめは
（なぜ）
（なぜ）
（なぜ）

かつては古い和歌の伝統の特質
をもっていたようで、
都は常すはらしく大規模に装飾する
ことを重しとし、街つ筋毎にわさ
わざ飾の場と物語の場を作る。
は都市ではなく独の人に
このほんの海岸にしっとすばらし
い恵みである。民を仏都市の都市
美は三人を猫間の美しさを見た
ずきである。どこにも中人のない
都市こそ民を口にふさわしい都市
である。

なぜ第一とかくべきではなくかに
侵つよい都市とするるか第一である。

[illegible]

(三)

[illegible]

[illegible]

(二)

東京の場合

[illegible]

中部地方

[illegible]

(三)

[illegible]

2. 市

[illegible]

指定構成

(一)

[illegible]

ければとして考えられてはならない。問題の大きさは、作戦、地方中都市の中小企業体を通じ、工場、小売、利用、いずれにしても、ここに集まる。

吸収の書物、かなり形で示唆している。

かなりは、知っている。新聞が、東京、大阪の資源と為政者、同業の、学者、人員の資源と為政者、同業の、学者、人員の資源と為政者、同業の、学者、人員

彼我の兵員数、兵器の種類及び量、兵員の疲労度、地利用地形、それらの心の計算の上に合理的に強弱勝敗の判断を下すのが作戦本部の任務である。

兵力の合理的利用をはかる

作戦本部の行動は戦場と戦場の情勢の時と所とに応じ臨機応変に

ハ、ハ、ハ、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

戦争は敵と味方の間の闘争である。
戦争の人間生活における意味は敵と味方の接触点における闘争の中に
現象する。
統治の正しい意味は統治者と被統治者との間の接触点における闘争に
よりとうすべきである。
戦争は日本と日本との間の外国関係の
ごとく降伏または統治者との間
の外国、君主と君主との間の外国と解
決、国民と国民との間の内戦
または、第一線の兵と兵との血みどろ
の闘争
の命令はほとんど直接に明のごとし。

田舎に小さな工場を作って働いている工員の家は貧乏で苦しい。この日が疎開されて工場のやっている。

第一線の兵士と兵士の乱中として疎開された小さな戦争は、はげしくなってきたとしたらかもしれないが、思えば戦争は一つの企業であるとしてみれば戦争は一つの時間として成立する。総事の戦争は私たちのものではなかったか。戦争をその当局経営者の作戦指令部より眺めて考えなかったか。口の食べ物まで強制されて一つの生活を行に強いられ、命をかけて戦いよく戦って、陸軍にはカイセンする外に活路なく、兵士の作戦を中心としては簡単に解決されるかもしれない。

学徒動員の敵軍、若者は戦争動員の犠牲の同にあって呼吸して敵陣に向って兵を考えて見よ

強事は
日宗と我宗と王者の立場からのみ
考へられて来た藤原思想の学問が
王者の為にのみ成立つ事を強いられ
て来たからである。

日民族の歴史と文化の中心が
東京に結集され飛鳥の集まりつつ
ある事実は集まりつつ
なる場合です。この場合、
別の場合は飛鳥
あれ飛鳥の動向の
それは移動した他に移動すると
移動の人数は
御内の数字です。

人口の移動と混乱とは別問題である。人口の移動と混乱とは別問題である。人口の移動と混乱とは別問題である。

ここでは特異の問題は三様刊しかない。

第一、産業的職場の場合

職場

第二、都市住民の住居、家庭としての都市

都市は世帯である。

第三、社会的交通機関（交通、運輸）

の施設

都市は一つの機能である故に都市は職場と世帯より成立しているともいへる。

都市の本来の機能から考えれば第三は特殊な職場である。

機関の車庫、運送業者、倉庫、

となったのは当然である。車庫の

機関車、電車、自動車、飛行機

都市は自由に成長の機会

少数の業は特色へ

考へられる。

第三のもの

都市は構成要素

機関車、職場、行程

市民、世帯、及び都市本

来の機能の交通、物資、

運搬機関

の三種は

都市には世帯

の多数から若干の文化に関する特色

機能の車庫、運送業者、倉庫、

となったのは当然である。車庫の

機関車、電車、自動車、飛行機

都市は自由に成長の機会

少数の業は特色へ

考へられる。

第三のもの

都市は構成要素

機関車、職場、行程

市民、世帯、及び都市本

来の機能の交通、物資、

運搬機関

の三種は

都市には世帯

の多数から若干の文化に関する特色

この三つの動かし難いよう
前年はとうていできぬ時代であった。
火と電気と水と飛行機の発達は
戦争の様子に対して無数の
前年の迷信を考えれば
私は失った安穏幽閑の全部の
補償を考へる。
の所置は唯一の機関の復興
で沿ひ出来た復興の復興
を考へる。
前年の午年の春から家中の
苦心の都市を建設した。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第二機関に関する必要なる規
関係者の苦心経緯
[illegible]
今日は[illegible]都市と農村の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

多くの機会が過ぎ去ってしまったことは
これは東京その他の地域内に人口集中
を抑止しようとする
けれども東京の混乱がまたに
一つ加わったことは
東京の過大とそれに伴う混乱
と危険が飛躍的に高まったことに対し
て、人口集中の制限を直ちに考えなく
ではならない。
しかしこれは決して考慮しなくも
しかしこれは考慮。
内乱混乱と危険は人の生活の基盤
が根本的に揺ぐ事態を生じ

(共)

市、どんな都市にすべき民主的
の千万都市にすべきか、新しい
都市の姿は。

東京の長所短所を伝えよ。東
京駅に集まってくる人は
ではない。中小都市
分散して一点に集まる人の流
をさけ混乱をさけなければならない。
し地域に事務所に集中
し分散の不幸をなくする
人が都に集まる機会をつくる。
とも市内の各地域に分散する
とんな大量の人口も機関も
産業なしに都市の構へ

(ロ) 又業務上で文化的高度の要求を満足させる満足感を感じる。

(ハ) 時がおとるか、人の生活の基盤は出来ないと人口の量に応じなければならない。生活の基盤を考えることに専念して生活を物質的に満足させる方法を考えねばならない。

(ニ) 現在一日の時間を考えると、(ロ)を満足感を感じる。(ハ)は満足感を感じる。

(ホ) 千万都市は当人達の便宜上便利である。

(ヘ) 然し便宜上便利を感じる。

(ト) 都市連絡は交通機関によるとして千万人でも二時間で都市はどこへでも行けるようになる。

政治の中央と地方

政治の中央と地方との関係は全般的に
あまり明白でないが地方は
やはりどちらかというと中央の
要求に応じて自治体が設置
されたり廃止されたりする
傾向の強いものが多く
地方の自治は余りよくなかった
傾向が強いようである。
しかし地方の自治体が
大きい場合、
中央に対してもある程度
強い発言権を持つ場合が
多い。
中央の方針に保護を与え
中央に対してもある程度
強い発言権を持つ場合が
多い。

[illegible]